

ヒューマノイドロボット による高齢者のための トレーニングガイド R T C

ユーザーマニュアル v1.5

2019/10/29 最終更新日 2019/12/09

新田怜香, 大塚菜々, 岡野憲, 松日楽信人

芝浦工業大学工学部機械機能工学科知能機械システム研究室

目次

1 開発したシステム.....	2
1.1 はじめに.....	2
1.2 開発・動作環境.....	3
1.2.1 ソフトウェア.....	3
1.2.2 使用機器.....	3
1.3 システムの概要.....	4
2. 使用方法.....	6
2.1 ハードウェア準備.....	6
2.2 システムの起動.....	7
2.3 立ち上がり回数の設定.....	8
2.4 トレーニング.....	8
2.5 立ち上がり時間の表示.....	9
3. 開発した RTC.....	10
3.1 Judge3RTC.....	10
3.2 StandupRTC.....	12
3.3 GUIRTC.....	13
3.4 CalcRTC.....	15
3.5 CsvWriteRTC.....	16
3.6 ChangeRTC.....	17
参考.....	18
連絡先.....	18
修正履歴.....	18

1 開発したシステム

1.1はじめに

平成 30 年において日本の 65 歳以上の人口は 3558 万人であり、総人口に占める割合（高齢者率）は 28.1%となった。これは、超高齢社会の基準となる 21%を上回っている。2060 年には、高齢者率は 38.1%になると予想されている[1]。高齢者が健康で自立した生活を送るためには日常的に運動することが必要である。また、能動的な参加が必要となるリハビリの場面において良い結果をもたらすためにはモチベーションの維持・向上が必要不可欠と考えられている。しかし、筋力トレーニングや体操は単調でかつ結果が不明瞭なためモチベーションを保つことが困難である。モチベーション向上のためには、肯定的な評価を含む励ましや目標を示す言葉が効果的である[2]。さらに、リハビリを共に行うガイド役が見本を見せることで、適切なリハビリ効果を得られる。今回は、このガイド役としてヒューマノイドロボットを導入した。本研究では、高齢者の運動や、リハビリの場面において、モチベーション向上のために一緒に運動し声掛けを行う RTC 群の開発を行った。立ち上がり動作を行い、立つ、座る動作のたびにヒューマノイドロボットがガイドと声掛けを行う。そして、目標の回数まで立ち上がり動作を行うと 1 回の立ち上がりに要した時間が表示される RTC 群を開発した。

1.2開発・動作環境

1.2.1 ソフトウェア

- OpenRTM-aist1.1.2
- Visual Studio Code

修正 BSD ライセンスを適用する。研究用途かつ利用者の責任の下でご使用ください。

1.2.2 使用機器

- ヒューマノイドロボット (NAO)
- PC
- 圧力センサ (FSR-408)
- arduino mega
- オーディオ機器

圧力センサ (FSR-408) を複数設置し足底にかかる荷重を測定するセンサ (以下足底センサ) を作成した。足底センサを Fig.1 の示す。これにより立ち上がりや座り込みの検出をセンサの変化によって行う。また、左右の足裏にかかる力の比などを見ることができる。すでに把持部に圧力センサを設置したハンドルでの実験を行ったが[3], 今回は立ち上がる際の足裏の前足部と後足部のバランスをみるため足底センサを用いた。



Fig.1 Sole sensor

1.3 システムの概要

システムの概要図を Fig.2, Fig.3 に示す.

使用の流れは以下の通りである.

- ① 使用者が開始の合図を出す
- ② 使用者による立ち上がり回数を入力
- ③ NAO がガイド役となって立ち上がりトレーニングを行う。
- ④ NAO がアドバイスをする。
- ⑤ 立ち上がり回数が目標に到達するとトレーニングに要した時間が PC 上に表示される。

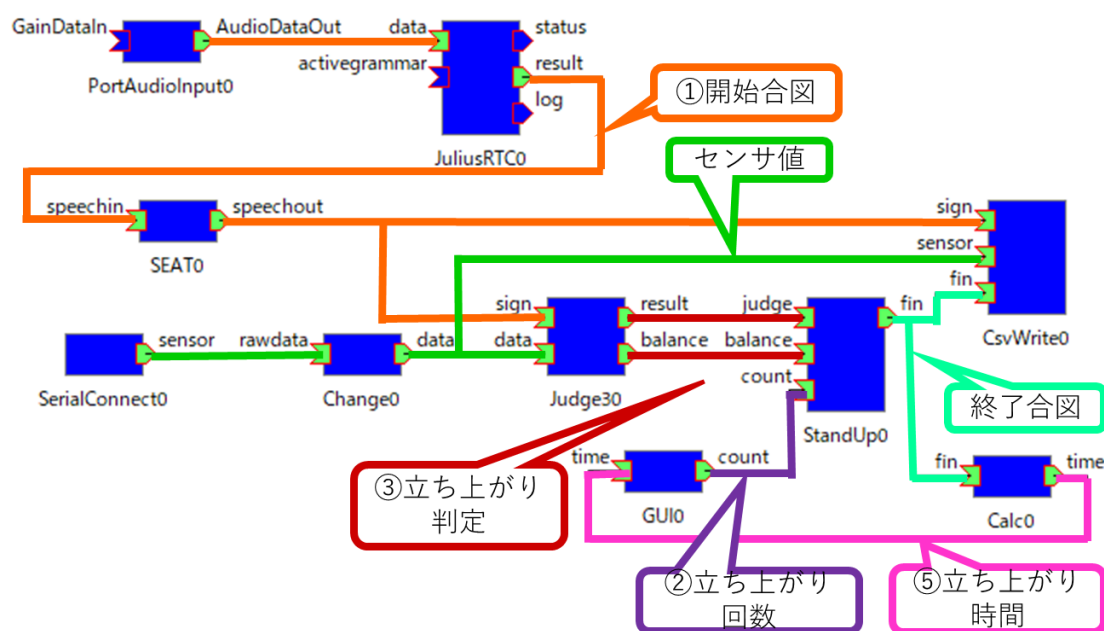


Fig.2 System flow

PortAudioInputRTC で音声を聞きとる。JuliusRTC で聞き取った言葉を判別し、SEATRTC で判別した言葉に対応した合図を出力する。今回は「開始」の単語を聞き取ると「kaishi」という文字を出力する。SerialConnectRTC で FSR センサに繋がった arduino からセンサ値を読み取る。読み取ったセンサの値は ChangeRTC に入力され、荷重に変換後出力される。変換されたセンサ値が Judge3RTC と CsvWriteRTC に送られる。Judge3RTC では ChangeRTC からのセンサ値を読み取り、人が座っているか立っているかの判定を行う。また、今回は両足底のデータが入力されるため、立ち上がる際の左右のバランスを計算する。Judge3RTC で判定された値は StandUpRTC に入り、その結果によって NAO の動きが変わる。始めに使用者が座った状態で NAO が「今日も頑張りましょう」と励ましの言葉をかけ「僕みたいに立ってね」と言い立ち上がる。使用者が立ち上がると「上手に立てたね」などの励ましの言葉や「重心が左に偏っています。」などのアドバイスをかける。設定した回数立ち上がり動作を行うと StandUpRTC から CsvWriteRTC と MathRTC に終了の合図が出される。設定回数は変更可能である。CsvWriteRTC は終了の合図を受け取ると csv ファイルを close する。そして NAO が「お疲れさまでした」と声をかける。MathRTC は書き込み終わった csv ファイルから時間を取得し立ち上がりにかかった時間を計算、PC の画面に表示する。青枠が既存のコンポーネント、赤枠が開発したコンポーネントである。青枠の PortAudioInput, JuliusRTC, SEAT はコミュニケーション知能モジュールパッケージ OpenHRI からダウンロードすることができる[4]。SerialConnectRTC は本研究室で開発されたものである。

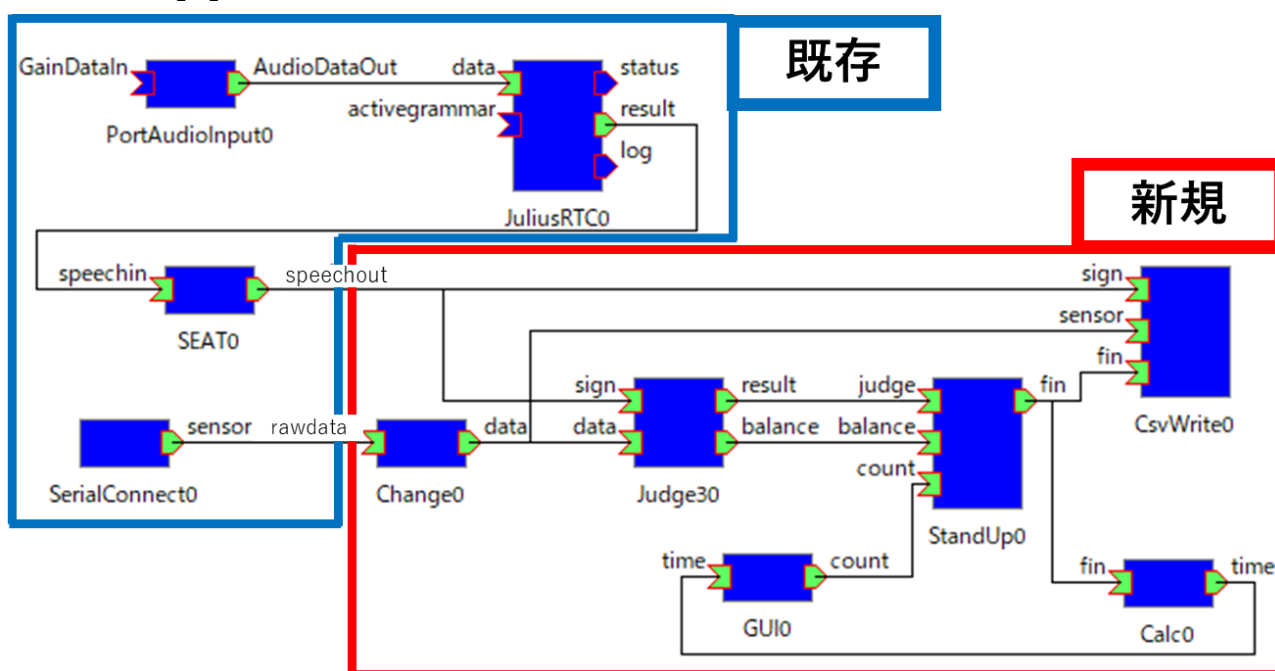


Fig.3 Developed components group

2. 使用方法

2.1 ハードウェア準備

- ① PC と NAO を有線 LAN（ソケット通信）で接続する
- ② 足底センサと PC を arduino を介して USB 接続する.
- ③ PC とオーディオ機器を接続する. Fig.4 に様子を示す.

（PC のマイクを用いると拾う音が多いため、オーディオ機器を用いる.）

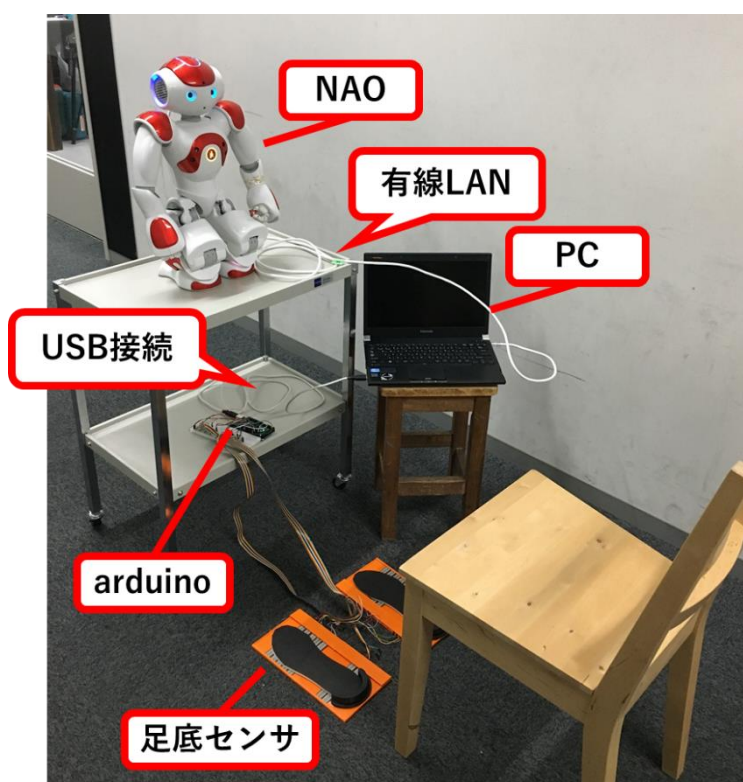


Fig.4 Instrument placement

2.2 システムの起動

- ① “eclipse”を起動する。ワークスペースの選択では RTC のフォルダがあるワークスペースを選択する（Fig.5）。

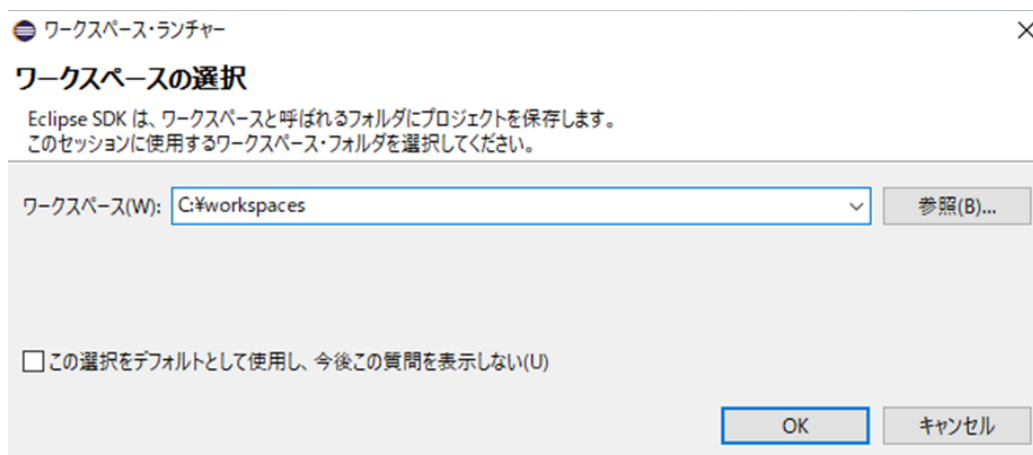


Fig.5 select workspace

- ② OPEN_NAO_CHEER.bat を開く。
- ③ “eclipse” の SystemEditor で “PortAudioInputRTC” , “JuliusRTC” と “SEATRTC”の 3 つを Fig.6 のように port をつなぎ All activate する。

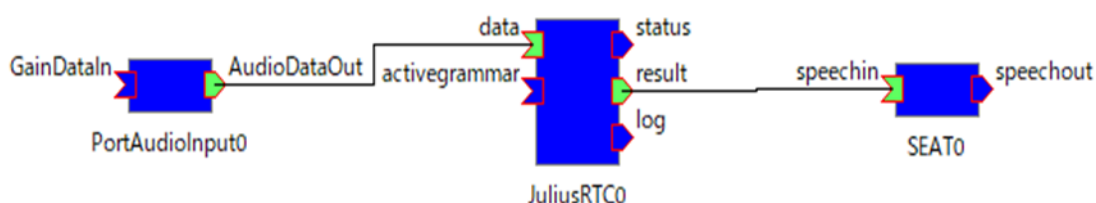


Fig.6 How to connect ports

- ④ Fig7 が PC 画面上に表示される。

2.3 立ち上がり回数の設定

- ① GUI 上のテキストボックスに自分が行う立ち上がり回数を記入する。
- ② 入力ボタンを押し，GUI 画面を閉じる。



Fig.7 Determination of the number of stand up

2.4 トレーニング

- ① 図のように NAO のガイドに合わせて立ち上がり動作を行う。
 1. NAO と使用者が共に着座した状態が初期姿勢である。足底センサに足を乗せ「開始」と言う。
 2. NAO が「僕みたいに立ってみよう」と言い，立ち上がる。
 3. 使用者が立ち上がると NAO が「上手。もう一回頑張ろう。」と言い，座る。
 4. 使用者が座る。2 に戻る。

s 立ち上がり回数が目標に達すると NAO が「お疲れさまでした。」と言う。トレーニング中に片足に力がかかりすぎていると，NAO が「重心が偏っています。」と言い教えてくれる。また，使用者の立ち上がり時間に合わせて NAO も立ち上がりの速度を変更する。

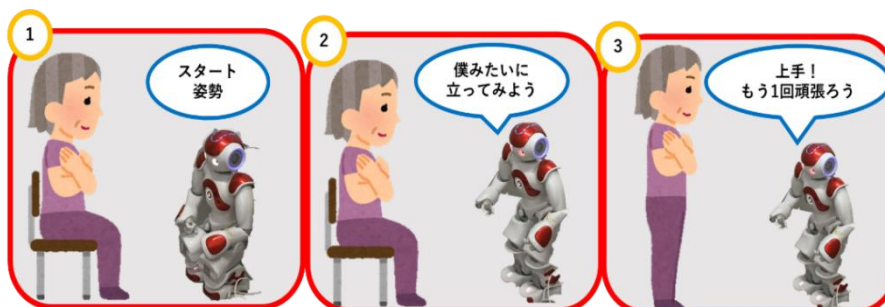
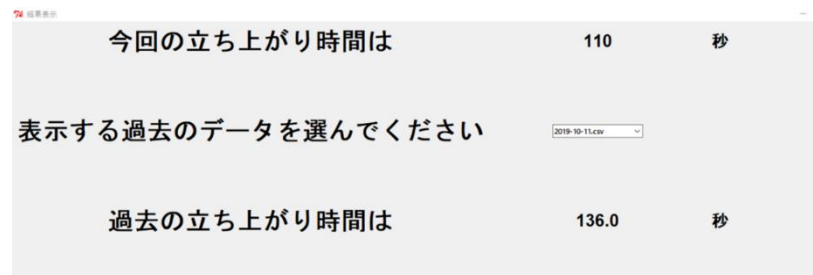


Fig.8 Training image

2.5 立ち上がり時間の表示

- ① 立ち上がり回数が目標に到達すると Fig9 のように今回のトレーニングに要した時間が表示される.
- ② 過去のフォルダを選択し, 過去の時間を表示する.



結果表示

今回の立ち上がり時間は	110	秒
表示する過去のデータを選んでください	<input type="text" value="2019-10-11csw"/>	
過去の立ち上がり時間は	136.0	秒


Fig.9 result

3. 開発した RTC

3.1 Judge3RTC

Judge3RTC はセンサ値を受け取り, 足底の力から人が立っている状態か座っている状態かを判定するためのコンポーネントである. signPort に “kaishi”が入力されると dataPort が読み込みを開始する. dataPort にセンサ値が入力されると, 立ち上がり判定を行う. 立った状態では 1 を, 座った状態では 0 を resultPort が出力する. また, センサ値に差があった場合 balancePort が 2 もしくは 3 を出力する. Configuration parameters の threshold は立ち上がりを判断するときの閾値である. addvalue は差が何 N あると balancePort から値を出力するかを変更することができる. トレーニング開始前の準備でセンサ値が変化する可能性があるため, 開始の合図を受け取ると判定を開始することとした. 今回は圧力センサの値を用いているが 6 軸力覚センサやフォースプレートなど, 他のセンサの値も使用可能である. 実際の測定値を Fig.4 に示す.

Table.1 Judge3RTC

Judge3RTC		
		
InPort		
名称	データ型	機能
sign	RTC/TimedString	開始合図の取得
data	RTC/TimedFloatSeq	センサ値の取得
OutPort		
名称	データ型	機能
result	RTC/TimedLong	立ち上がり座り込みの判定結果を出力
balance	RTC/TimedLong	バランスの出力

Configuration parameters

名称	値
addvalue	10
threshold	3

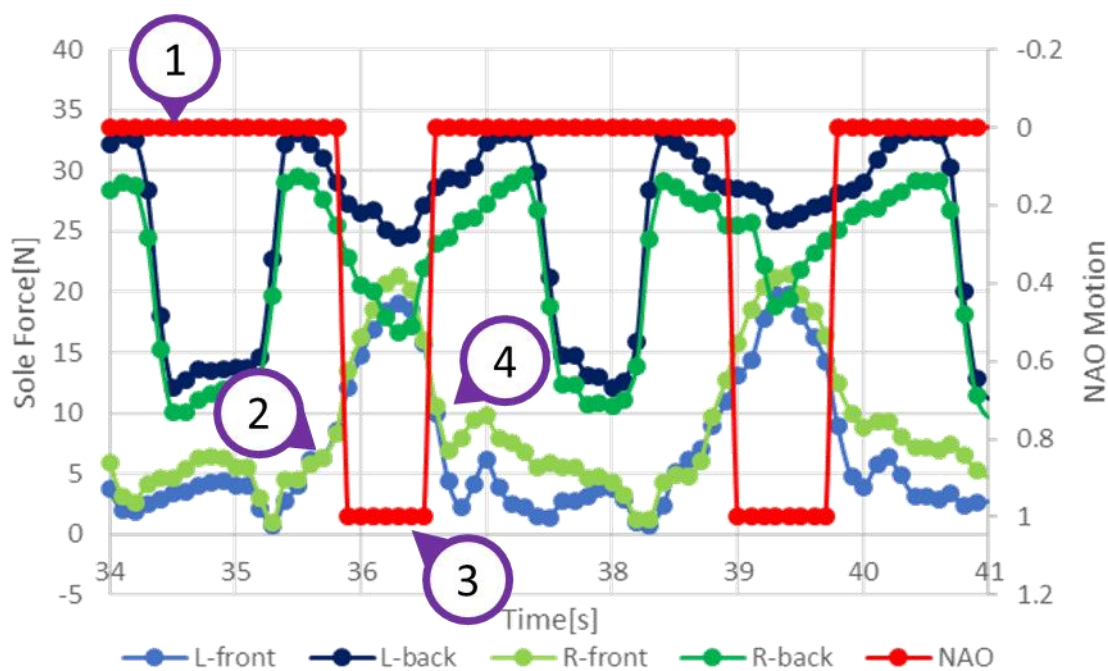


Fig.10 NAO and human state

Fig.10 の赤色の線が NAO の動きであり、残りの線が足底センサで測定した結果である。NAO は 0 の値の時立った状態であり、1 の時は座った状態である。

- ① NAO が立ち上がる。
- ② その後前足部の力（L-front, R-front）が増加し使用者が立ち上がる。
- ③ NAO が座る。
- ④ 使用者が座り、前足部の力が減少する。

3.2 StandupRTC

StandUpRTC は人の動きによって NAO に命令を出すコンポーネントである。まず, InPort の count が立ち上がり回数を受け取る。その後 judgePort, balancePort に立ち上がり判定やバランスの判定が入力されると NAO に命令をソケット通信で送る。countPort に入力された回数立ち上がりを行うと finPort から終了の合図が出力される。トレーニング中, judgePort と balancePort が値を受け取ることでトレーニング中に NAO が重心の傾きや速さを指導してくれる。

Table.2 StandUpRTC

StandUpRTC		
		
InPort		
名称	データ型	機能
judge	RTC/TimedLong	立ち上がり判定の取得
balance	RTC/TimedLong	バランスの取得
count	RTC/TimedLong	回数の取得
OutPort		
名称	データ型	機能
fin	RTC/TimedString	終了合図の取得
Configuration parameters		
名称	値	
NAO_IPaddress	127.0.0.1	
NAO_Port	9559	

3.3 GUIRTC

GUIRTC は Fig.11, Fig.12 のように立ち上がり回数の入力とトレーニングに要した時間の表示を行う。始めに Fig.11 の GUI に立ち上がり回数を数字で入力してもらう。Outport の count がその数字を出力する。InPort の Time は立ち上がりに要した時間を受け取り、Fig.12 のように表示する。また、トレーニングを複数日行っている場合、過去の日付を選択することができ、選択すると過去の時間も表示する。

Table.3 GUIRTC


GUIRTC		
		
InPort		
名称	データ型	機能
time	RTC/TimedDouble	立ち上がり時間の取得
OutPort		
名称	データ型	機能
count	RTC/TimedLong	立ち上がり回数の出力



Fig.11 entry number

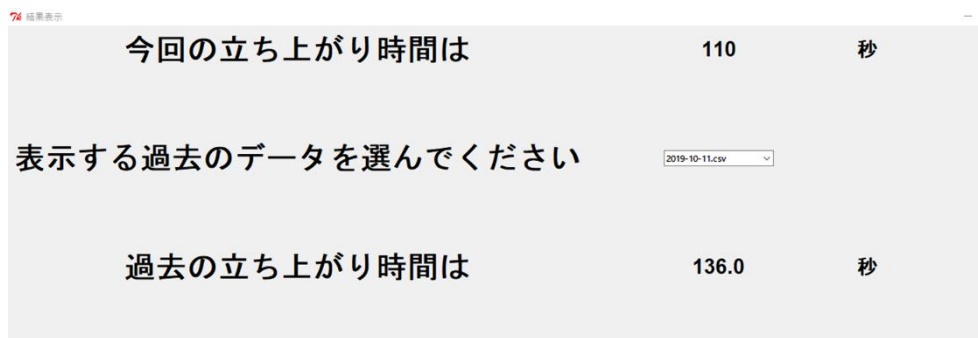


Fig.12 result

3.4 CalcRTC

CalcRTCは, トレーニングにかかった時間を計算する RTC である. finPort に “fin” の文字が入力されるとトレーニング日がタイトルの csv ファイルを読み込みトレーニングに要した時間を OutPort の time が出力する.

Table.4 CalcRTC

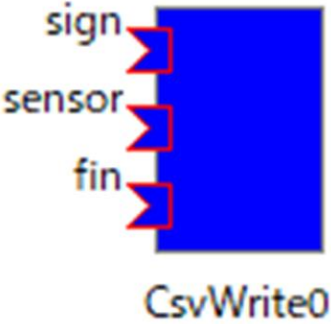
CalcRTC		
		
InPort		
名称	データ型	機能
fin	RTC/TimedString	終了合図の取得
OutPort		
名称	データ型	機能
time	RTC/TimedDouble	立ち上がり時間の出力

,

3.5 CsvWriteRTC

CsvWriteRTC は csv ファイルにトレーニング結果を書き込む RTC である。"kaishi"という文字列が signPort に入力されると、sensorPort がセンサ値の読み取りを開始し、 csv ファイルに書き込む。 finPort が"fin"の文字列を受けると csv ファイルへの書き込みを終了する。 csv ファイルに書き込むことで、過去の成果と比較することができる。


Table.5 CsvWriteRTC

CsvWriteRTC		
		
InPort		
名称	データ型	機能
sign	RTC/TimedString	開始合図の取得
sensor	RTC/TimedFloatSeq	センサ値の取得
fin	RTC/TimedString	終了合図の取得

3.6 ChangeRTC

ChangeRTC はセンサ値を校正するための RTC である. rawdataPort にアナログ値が入力されるとその値を荷重に変換し dataPort が出力する.

Table.6 ChangeRTC

CsvWriteRTC		
		
InPort		
名称	データ型	機能
rawdata	RTC/TimedString	アナログ値の取得
OutPort		
名称	データ型	機能
data	RTC/TimedFloatSeq	センサ値の出力

参考

- [1] 内閣府：“令和元年版高齢社会白書（令和元年）”
- [2] 木菱由美子，高橋由美子，佐々木和人：“リハビリテーションにおける患者様への声かけについて”，専門リハビリ第3巻，pp.25-29，2004
- [3] 大塚菜々，浅田郁弥，岡野憲，内藤佑太，原田信太郎，松日楽信人：“高齢者の習慣的な運動を支援する声掛け RTC”，第19回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会，2E1_03，2019
- [4] OpenRTM-aist「コミュニケーション知能モジュールパッケージ OpenHRI」
最終閲覧日 2019/10/29URL:<http://openrtc.org/OpenHRI/>

連絡先

芝浦工業大学工学部機械機能工学科知能機械システム研究室

〒135-8548 東京都江東区豊洲 3-7-5

E-mail：ab16063<at>shibaura-it.ac.jp

matsuhir<at>shibaura-it.ac.jp

修正履歴

バージョン	発行日	改定内容
V1.2	2019/10/29	初版
V1.3	2019/12/02	3.1 JudgeRTC と 3.2 StandUpRTC のデータ型を変更しました。
V1.4	2019/12/06	3.2 StandUpRTC のパラメーターを変更しました。
V1.5	2019/12/09	1.3 システムの概要に ChangeRTC を追加しました。 3.6ChangeRTC を追加しました。 3. 開発した RTC の説明文を変更しました。